

## 【短 報】 野生動物

## 北海道室蘭にて複数の死体が発見された ヒガラ *Periparus ater* の剖検記録

竹内 萌香<sup>1)</sup> 水主川剛賢<sup>1,2)</sup> 尾崎 伸雄<sup>3)</sup> 大沼 学<sup>4)</sup> 浅川 満彦<sup>1)</sup>

- 1) 酪農学園大学獣医学群獣医学類感染・病理学分野 (〒069-8501 江別市文京台緑町582)
- 2) どうぶつ王国 (〒650-0047 神戸市中央区港島南町7-1-9)
- 3) 北海道庁環境生活部環境局生物多様性保全課動物管理グループ (〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目)
- 4) 国立環境研究所生物・生態系環境研究センター (〒305-8506 つくば市小野川16-2)

### 要 約

2015年10月、室蘭市の民家敷地内に計25羽のヒガラ *Periparus ater* の死体が散在していた。インフルエンザ簡易検査で陰性を確認後、冷凍された2羽について解剖および寄生虫などのサンプリングを実施したところ、腐敗傾向が強く死因特定は不可能であったが、少なくとも餓死や餌不足、外傷、顕著な感染症や中毒などは否定的であった。食道から胃の内腔には羽繕いにより摂取されたと考えられる外部寄生虫が見出されたことから、死の直前まで元気に活動していたことが想像された。ヒガラは室蘭市の鳥として指定されるほど、この地域では個体数が顕著である。今後もこのような大量死が生ずる可能性があることを注意喚起した。

-----北獣会誌 60, 144~146 (2016)

### はじめに

2015年10月28日午後0時頃、室蘭市小橋内の民家庭先および屋外階段などに、計25羽のヒガラ *Periparus ater* の死体が散在していた (図1)。インフルエンザ簡易検

査で陰性を確認後、2羽を酪農学園大学野生動物医学センター (WAMC) に搬入した。スズメ目野鳥については、WAMCで最近実施した手法に準じ<sup>[1-3]</sup>、解剖および寄生虫などのサンプリングを実施したので報告する。



図1. ヒガラ死体が散在していた民家周辺概観  
(左: 家自体の画像はプライバシー保護のため非公開処理済み) と死体の状況 (右)

### 材料および方法

ヒガラ2個体は2016年1月、WAMCに冷凍状態で搬入され、剖検前に解凍された。それぞれWAMCカルテ番号AS-15848および15852として登録した(図2)。各種作業前にウエストナイル熱ウイルス簡易試験キット(WNV / SLE Vec Test, Medical Analysis Systems, U.S.A.:同ウイルスのモノクロー抗体応用したもの)を用いた検査を実施し、陰性結果を確認した。外部寄生虫を検索した後、体測および剖検を定法に従って実施した。各臓器および消化管は肉眼所見を記録した後、実体顕微鏡下で精査し、寄生蠕虫類を検索した。以上の検査後、肝臓、腎臓、脂肪および筋肉の一部を今後の比較参考用試料としてWAMC内冷凍庫にて-20℃冷凍保した。

### 成績および考察

AS-15848:成鳥、性別不明、体重8g、全長186mm、翼開長186mm、自然翼長56mm、最大翼長59mm、翼幅46mm、尾長46mm、露出嘴峯長7.15mm、嘴高3.3mm(鼻孔後)、嘴幅2.5mm(鼻孔後)、全頭長24.6mm、ふしょ長15mmであった。翼の風切羽根に換羽状態の

ものはなかった。総排泄腔の周辺部は腫大し、右大腿遠位部の鬱血を認めた。ウモウダニ類の多数寄生以外に体表に顕著な外傷などの異常所見は認められなかった。胸部皮膚切開により、鎖骨部に脂肪蓄積が確認された(図3左)。左胸筋がやや陥没していたが、色調などで著変は認められなかった。肺周辺部が白変していたが、全体的に腐敗していた。その他の臓器も強度な腐敗傾向を呈した(図3右)。消化管も腐敗し脆弱で、内部寄生虫は認められなかった。

AS-15852:成鳥、雄、体重9g、全長81mm、翼開長162mm、自然翼長60mm、最大翼長61mm、翼幅44mm、尾長欠損、露出嘴峯長7.3mm、嘴高3mm(鼻孔後)、嘴幅3.6mm(鼻孔後)、全頭長26mm、ふしょ長14mmであった。尾羽根および上尾筒の羽毛が欠損していた。この個体も総排泄腔周辺部の腫大が認められた以外、体表に顕著な外傷などの異常所見は認められなかった。また、この個体でもおもにハジラミ類の外部寄生虫が多数得られた。開腹後、皮下脂肪の蓄積、諸臓器や消化管の著しい腐敗傾向は前個体と同様であった。また、内部寄生蠕虫も見出されなかったが、食道から前胃にかけての内腔に多数のハジラミ類、皮下にヒカダニ類が見出され



図2. 酪農学園大学野生動物医学センターにて検査されたヒガラ



図3. 胸部皮下の脂肪蓄積(左)と腐敗した臓器概観(右)

た。

両個体の栄養状態は普通からやや良好な状態を呈していたので、餓死あるいは餌不足などは否定された。また、外傷は認められなかったので、建造物との衝突や外部からの攻撃なども否定できた。さらに、出血傾向を伴うような急性感染症あるいは中毒、膿瘍形成をする日和見感染症などをうかがわせる所見も得られなかった。食道から胃の内腔には羽繕いにより摂取されたと考えられる外部寄生虫も見出され、死の直前まで元気に活動をしていたことも想像された。しかし、これ以上の死因特定は不可能であった。著者らが経験した範囲では、スズメ目鳥類では、明らかな事故を除き、明確な死因確定に到ることは難しい<sup>[1-3]</sup>。しかし、記録の蓄積やサンプルの保存などは、将来の同様な事例解析で参考になろう。なお、今回得られた寄生性節足動物の分類は検討中である。ヒガラは室蘭市の鳥として指定されるほど<sup>[4]</sup>、この地域では個体数が顕著である。今後もこのような大量死が生ずる可能性もあるので警戒をしたい。

## 謝 辞

本分析は文科省科研費基盤研究C(26460513)および同省私立大学戦略拠点事業(酪農学園大学大学院2013年~2017年)の一環でなされた。

## 引用文献

- [1] 平山琢朗、棚田敦司、浅川満彦：北海道江別市内で発見されたコバシギンザンマシコ *Pinicola enucleator kamtschatkensis* 個体死体の剖検記録、北獣会誌、57、475-476 (2013)
- [2] 吉野智生、川路則友、浅川満彦：札幌市羊が丘にて採集されたナキイスカ *Loxia leucoptera* の剖検記録、北獣会誌、58、548-550 (2014)
- [3] 吉野智生、持田 誠、浅川満彦：窓へ衝突死したシロハラの一例、道野鳥だより、(167)、4-5 (2012)
- [4] 室蘭市公式ホームページ：室蘭市の花・木・鳥・魚、<http://www.city.muroran.lg.jp/main/org1200/hanakitorisakana.html> (昭和47年制定)